

# 昭和大学藤が丘病院 藤が丘リハビリテーション病院だより 第297号

第297号【2014年3・4月】

発行者：昭和大学藤が丘病院  
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
発行責任者 高橋 寛  
(広報委員会委員長)

新任挨拶

## テクノロジーは進化し、我々は……

放射線科教授 橋本 東児

スカイツリーの完成で、予備電波塔となった東京タワーは、50年以上にわたって電波塔として活躍しました。その完成は1958年で、私と同じ年です。当時と比べ、乳児死亡率は1/15、妊産婦死亡率は1/37に減少しています。医療の大幅な進歩を実感できます。

画像診断における進歩はどうでしょうか？ 医療画像における診断エラーの報告を振り返ってみると、最初の報告は、Garlandによる1959年の論文です。経験ある放射線科医は胸部エックス線写真において、異常所見の30%を見落とし、同一読影者でも3か月後の再読影で20%の食い違いがある、というセンセーショナルなものでした。その後の報告も、1976年、胸部・骨・GI・特殊検査にて30%のエラー、1998年から2005年にかけて複数の報告でも、医師間解釈で35%程度のエラーが報告されています。

半世紀前に比べ、程度の差はあるとしても、現在も同じような率でエラーが残っている。テクノロジーの進化に、人間の目と脳が追いつけないという人や、人間が新たなエラーを作り出しているという人もいます。しかし、様々なノウ

ハウが蓄積され、エラーを実際に減らす方法も多く報告されています。その方法論はまだ歴史が浅いかも知れません。爆発的な情報量の増加や、医療の複雑化に押し戻されることなく、常に改革を続けなければならないと切に感じています。

検査予約システムの進歩はどうでしょうか？ 地域医療連携サービスの一環としてITを利用することで、放射線科へのオンライン画像検査予約が可能になれば、連携における大きなメリットになります。実際に稼働している施設も広がっています。当科としても、実現できるよう、病院と共に準備をしてみたいと思います。

最後になりましたが、放射線科並びに看護師・診療放射線技師の働く放射線室に対して、皆様の日頃のご協力とご理解に深く感謝申し上げます。



退任挨拶

## 藤が丘病院を定年退職するに当たって

産婦人科 齋藤 裕

私は本年3月をもって定年制により藤が丘病院を退職しました。13年に亘る藤が丘病院の勤務も、各診療科や近隣の産婦人科の先生方、患者さんからのご協力やご支援をいただき、何とか職務を全うできたことを感謝しております。

藤が丘病院は私が昭和大学産婦人科に入局した昭和50年に開設され、当時は病院内にエスカレーターが設置されるなど、最新の設備でスタートしました。最近の10年、我が国の医療は飛躍的に進歩しております。現在では建物の老朽化などで色々とお不便をおか



けていますが、病院で勤務している医師らの診療への情熱は以前に負けないものがあります。

産婦人科では通常の分娩の他、専門医による婦人科腹腔鏡手術、悪性腫瘍手術も積極的に行っており、患者さんを長くお待たせすることなく、なるべく早く手術ができるよう心掛けております。横浜市北部地区には昭和大学横浜市北部病院があります。これからは、藤が丘病院は主に婦人科腫瘍を、北部病院はこどもセンターが充実していることから周産期をメインにと、両病院の役割分担を明確にし、近隣の産婦人科クリニックとの病診連携をさらに充実させて地域医療に取り組んでいく所存ですので、今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

有難うございました。

退任挨拶

## 藤が丘病院形成外科と共に

形成外科 角谷 徳芳

私の形成外科学教室入局は38年前で、昭和64年に藤が丘病院に赴任いたしました。当時を振り返ってみると、3~4人での仕事はまさにカルチャーショックでした。それまでの、旗の台での多くの症例と多くの医局員と一緒に、いわば大樹の影での仕事がいかに楽であったかを思い知らされることとなりました。

そもそも臓器名のない形成外科を、同業者ですら理解してもらえない時代でした。そこで、どのようにして他科から信頼を得るか、い

かに患者に信頼してもらうか悩みながら、当時の結論は依頼された患者はすべて良い成績を残すこと、できないと言わないことでした。その貪欲の積み重ねこそが大切で、今では県外からも多くの患者が集まるまでになりました。



具体的に、先天疾患である口唇口蓋裂は遠い沖縄から 100 人を超える患者が来るまでになり、神奈川県での顔面骨骨折治療はダントツで一位となりました。なかでも眼窩内骨折は多く、治療不完全な陳旧症例の依頼も受けるようになりました。さらに横浜全土の眼科からの眼瞼下垂手術依頼の増加も最近の特徴となっております。こうした疾患に対する手術は医局員に大きな経験を

もたらし、現在では上級医すべてが良い成績を修められるまでになっております。

現在 10 人前後の形成外科医で活発に手術しております。どうか私の定年後も、形成外科への厚い信頼をお寄せいただきたくお願い申し上げます。もちろん私も4月以降、微力ながら手術指導に馳せ参じるつもりであります。

退任挨拶

## 昭和大学とともに 47 年間

臨床病理診断科 光谷 俊幸

昭和 42 年昭和大学入学以来 47 年間、昭和大学にお世話になりました。

私は大学卒業後、田代浩二教授が主宰する第二病理学教室に大学院生として進学しました。大学院1年目からの東京都監察医務院(監察医)への出張は貴重な体験となりました。剖検はもちろん自殺、他殺、外因死等多くの症例に接し、今でも記憶が鮮明に蘇ります。



また当時、田代教授が厚生省(現在の厚労省)の班員であったこともあり、再生不良性貧血調査研究班、のちの特発性造血障害調査研究班の仕事では研究に追われ、「病理」のおもしろさに惹かれていきました。そして、ドイツ・ミュンヘン大学骨髄診断部門(Prof. Dr. R.Burkhardt)留学後は、臨床医になることをあきらめ、病理医として仕事をしていくことに決めました。

平成6年 佐川教授の後任として、藤が丘病院病院病理科の

医長に就任しました。当時、病理医は私1人でしたので、第1病理、第2病理の先生方と、消化器内科片平先生の協力を得て、病理業務(組織 9,500 件、細胞診 10,000 件、術中迅速診断 250 件、病理解剖 80~100 体)を行っていました。1人病理医の見落としの危険性、あるいは難解症例は、他の病理医とのディスカッションをして報告する必要があります。10年位前からは病理医4人、臨床検査技師8人体制を敷けるまでになりました。

M5、M6 病理実習では病理解剖を優先し、藤が丘病院独自の臨床検査、病理診断学を取り入れました。また CPC(臨床病理検討会)は研修医教育の重要項目であるので「CPC 委員会」を立ち上げ、研修医主体で病院全体として取り組む体制にしました。

退職後は患者さんのために、病理医として昭和大学に少しでもお手伝いできればと思っています。これまで病理検査部の皆様の協力はもとより、昭和大学の多くの方に支えられてきたことに、心から感謝申し上げます。

昭和大学が益々発展する事を祈念いたします。

退任挨拶

## 定年退職にあたってのご挨拶

眼科 谷口 重雄

私は、このたび 2014 年 3 月 31 日をもって昭和大学を定年退職いたしました。本紙をお借りして、これまでご支援、ご協力を賜りましたこととお礼申し上げます。

私は昭和 48 年 3 月に昭和大学医学部を卒業し、眼科学教室に入局するとともに大学院に進みました。その後、昭和 60 年 7 月に助教授として昭和大学藤が丘病院へ赴任し、平成 4 年 4 月に眼科医長、平成 5 年 7 月には眼科の教授に就任しました。平成 17 年 4 月からは昭和大学藤が丘病院副院長を 2 年間兼務し、藤が丘病院の運営に携わることとなりました。眞田院長とは、学生時代からよく知る同級生という間柄ですが、二人で副院長を務め、病院改革を行ったことはよい思い出として残っております。

平成 21 年 9 月には、眼科診療が藤が丘リハビリテーション病院へと移り、眼科専用の手術室が完備されました。そのおかげで毎年 1,000 件以上の手術が可能になり、大学病院として地域医療に貢献してまいりました。眼科が現在まで滞りなく診療を行っているのも、藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院の両院長をはじめとする各科の先生方、職員の皆様、スタッフの皆様のご理解とご協力があったからこそと考えております。

在職中は臨床、教育、研究を常に心がけ、統一した患者説明文書の作成、パソコンや解説書を用いた学生実習、年間を通した国内学会での発表、論文発表、また手術については自分の経験の中で得た安全な手技を医局員と共有し、藤が丘病院の基本術式として統一を図りました。



また、4 月に昭和大学から名誉教授という高名な称号を授かりました。改めて感謝申し上げますとともに、大変、気の引き締まる思いです。昭和大学名誉教授として今後の大学の発展に貢献していきたいと思っております。

昭和大学ならびに附属病院、関連病院のますますの発展を祈念するとともに、眼科もこれまでと同様の体制にて行っておりますので、今までと同様に、変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

【院内サークル巡り 3】

## ぱちぱちぺしっ!

将棋囲碁サークル

月に一度以上定例会を催し、将棋・囲碁の対局後の検討会等を通してお互いの親睦を深めているサークルです。

会員は現在22名、発足時より昭和大学囲碁将棋部とコラボ

レート活動を続けており、大学囲碁将棋部の有志と共に、主に金曜日の午後6~9時に昭和大学藤が丘病院の会議室等を借りて定例会を行っています。サークル会員には関東医科歯科大学

一ツ戦将棋部門の優勝者・入賞者・アマ強豪も在籍しています。今年度は学外から講師を招く計画もあり、又他の囲碁将棋サークルとの交流も視野に入れております。

サークルはメーリングリストを用いて活動内容を決定・告知しており、個々人の予定に合わせて参加する事ができます。

道具は一部有志の方の協力のもとサークルが準備致します。ルールを知らない初心者の方も歓迎致します。興味を持たれた方は是非御連絡下さい。

(代表 放射線科 林 高樹, 主務 岡部 尚行)



**【院内サークル巡り 4】 ウォーキングマラソンサークル ウォーキングマラソンサークル**

平成25年度は、登山やハイキングに出かけました。特に奥穂高岳に登山したときの達成感と恐怖心は忘れることができせん。ぜひ、また登ってみたいと思っています。これは、仲間あつてのもので、苦しいと



きも助け合って励ましあった結果だと思えます。また、私たちはお酒が大好きで、奥多摩に利き酒をしにも出かけました。「ウォーキングマラソン」といっても実際には登山やハイキングが多い一年でした。来年はぜひみんなで駅伝に出られるようなトレーニングを重ねていきたいと考えています。詳しくは、大学の学内専用ホームページにある『昭和大学公認サークル』をご覧ください。参加をお待ちしています。

(代表 看護部 柴田 雅子)

**新入職員を迎えました**

藤が丘病院、藤が丘リハビリテーション病院では、4 月から看護師117名をはじめとする新入職員 160名と臨床研修医 19名の計179名のフレッシュなスタッフを迎えました。

4 月 1 日(火)午前旗の台校舎・上條講堂で行われた入職式終了後、臨床研修医は引き続き旗の台校舎で、それ以外の職員は藤が丘病院に場所を移しオリエンテーションを開始しました。眞田院長、三邊院長の挨拶をはじめ医療安全、感染対策から接遇、マナー研修、消防訓練まで5 日間にわたるプログラムを受講しました。当初は皆さん緊張の面持ちでしたが、研修終了時にはすっかり当院のスタッフとしての自覚に満ちた表情となり、それぞれの部署に配属されました。



(管理第一課 高橋 良治)

**附属病院看護業績賞を頂きました 褥瘡専従看護師 佐々木 舞子**

平成 26 年 3 月 19 日に平成 25 年度附属病院看護業績賞を頂きました。この賞は、石井満昭和大学医学部附属看護専門学校主事の逝去に伴い、石井家からの寄付金を基に、業績顕著な看護職員を表彰することを目的に平成 4 年度より行われているものです。



今回頂いた賞の私の研究テーマは、「褥瘡発生率低減に向けた取り組み～体験学習を導入して～」です。褥瘡発生率を 1% 以下にするために、褥瘡予防のための基礎知識・技術を、体験を通してスタッフに学んでいただくことで、普段の日常業務の行動変容を促すことを目的としたものです。一度に行うことは困難でしたので、3年計画

で取り組みました。地道に全看護師対象に行ってきた結果が、ようやく成果として実を結んだことをまとめたものです。

私は、藤が丘病院に来てまだ 3 年ですが、伊部看護部長をはじめ各部署責任者の師長たちが褥瘡対策に対してとても協力的であることに感心しております。また、眞田院長、三邊院長までも褥瘡対策に対して発生率の目標値や体圧分散マットレスの過不足についてなどご助言くださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、藤が丘病院・リハビリテーション病院ともに、褥瘡発生率をさらに低下させられるようスタッフと一緒に看護の質向上に努力してまいりたいと思います。とにかく今回の受賞は私個人のものではなく、たくさんのスタッフの方々の協力のもただけの賞なので、看護部全体の受賞としてとして受け止めています。ありがとうございました。

新年度を迎えもうすぐ1か月が経とうとしていますが、皆さんにはどのような出会いがありましたか？ 今回の料理は「若竹煮」です。春に収穫される新タケノコと新ワカメは「春先の出会いもの」と言われ、相性のよい食材として一緒に食されてきました。旬の食材を組み合わせて、たくさんの調味料を使わなくてもお互いの味を高め合い、見事な味に仕上がります。若竹煮は大学1年生の調理実習で作るはずでしたが、ちょうど麻疹で40度の高熱にうなされ10日ほど入院するはめになり、「作ることができなかった料理」として私の記憶に残っています。退院後、友人たちから料理の写真とレシピをもらい、実習の様子を聞きました。その時の友人とは同じ管理栄養士仲間として、今でも励まし合っています。みなさんにもタケノコとワカメのような素晴らしい出会いが、きっとあったことでしょう！



《材料&作り方》

ゆでたけのこ	150g	わかめ	70g
だし	300cc	酒	30cc
砂糖	9g	薄口醤油	20cc
木の芽(あれば)	少々		

- ①たけのこは繊維が細ければ半分に切って四つ割りに、繊維が太ければ、回しながら7mm厚さの乱切りにする。
- ②わかめは水に浸して塩出しをし、湯でサッとゆでる。湯をきって一口大に切る。
- ③かつお節はガーゼで包み、しっかりと口を縛っておく。
- ④鍋に①のたけのこ、だし、酒、薄口醤油の材料、昆布を入れて火にかける。
- ⑤フツフツと煮立ってきたら、③のかつお節を加え(追いがつお)、弱火にして少し煮てから火を止め、そのままおいて味を含ませる。
- ⑥追いがつおを取り出し、②のわかめを加えて火にかけ、十分に温かくなったら、たけのこわかめを器に盛り、木の芽のせて煮汁を注ぐ。

以上が正式な作り方ですが、本当は、鍋にだし汁と砂糖、酒を入れて7~8分くらい煮て、薄口醤油を入れて5~6分煮て筍を取り出し、わかめを入れてさっと煮て盛りつけただけです。木の芽はスーパー3件回りましたが、まだ時期的に早かったため取り扱いがなく、のせられませんでした…。

(藤が丘病院栄養科 山尾 尚子)

診療統計 2014年2月・3月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2014年2月	2014年3月	2014年2月	2014年3月
外来患者数	29,286人 (1171.4人)	32,321人 (1292.8人)	4,725人 (205.4人)	5,274人 (211.0人)
入院患者数	14,022人 (452.3人)	15,836人 (510.8人)	5,120人 (182.9人)	5,702人 (183.9人)
紹介率	58.5%	59.4%	47.3%	47.3%
逆紹介率	53.2%	58.4%	52.5%	52.5%

( )は1日平均

《編集後記》

今年も素晴らしい先生方がたくさん定年退職されました。今まで地域の健康増進のため、藤が丘病院の発展のためにご尽力をいただきました。編集委員一同からも、感謝を申し上げます。そして、たくさんの新入職員を迎えました。皆が一日も早く立派な医療人になれるように、志高く頑張ってもらいと思います。フレッシュ達が、新タケノコと新ワカメのようにお互いの味を高め合い見事な味に仕上がると期待いたします。

高橋 良昌

《編集委員》

高橋 寛	佐々木春明	水間 正澄
小岩 文彦	高橋 良昌	小宅 育代
大塚 幸彦	吉原 利栄	辻本 さなえ
佐藤 優子	豊巻 美里	松尾 悠
飯田 八代枝	出川 美幸	高橋 良治

(順不同)